

beyond2020って、なに？

横浜美術大学⁽¹⁾ 菅原 みこ^{*}・岡本 信明

要 約

beyond2020 プログラムとは何で、そのロゴマークに託された意味について、オリンピックにおける文化プログラムの位置づけと、2020 東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた文化プログラムの取組みを紹介しつつ、beyond2020 ロゴマーク制作にまつわるエピソードや制作者の思い入れも混ぜて取りまとめたものである。

2020 東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた文化プログラムとして、東京 2020 公認文化オリンピックアード、東京 2020 応援文化オリンピックアード、beyond2020 プログラムの 3 つの枠組みが準備され実施されている。この中で、beyond2020 プログラムは、2020 年以降も見据えた取組みで、公式スポンサー以外の企業等を含む多様な主体が実施する事業や活動を認証対象としている点に特色がある。そのロゴマークは全国芸術系大学コンソーシアムの協力により公募されたもので、2020 東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた文化プログラムを盛り立てるだけでなく、文化芸術立国日本を目指す事業や活動の架け橋としての共有感を担う役割が期待されている。

目次

1. はじめに
2. オリンピックにおける『文化プログラム』の位置づけ
3. 2020 東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた『文化プログラム』
4. beyond2020って、なに？
5. beyond2020 プログラムのロゴマークについて
6. beyond2020 ロゴマークの制作にまつわるエピソードや制作者の思い入れ
7. おわりに

1. はじめに

オリンピック・パラリンピックがスポーツの祭典であると同時に文化・芸実の祭典であることを知っている人は意外に少ない。ましてや、2020 東京オリンピック・パラリンピック競技大会（以下「東京 2020 大会」という。）に向けて、「文化プログラム」に参画するための 3 つの枠組みが実施されていること、そしてその一つが「beyond2020 プログラム」であり、認証事業（活動）にロゴマークが付与されていることを知っている人はもっと少ない。

2. オリンピックにおける『文化プログラム』の位置づけ

オリンピックにおける『文化プログラム』の位置づけは、「オリンピック憲章」⁽²⁾にその根拠があります。

「オリンピック憲章」では、オリンピズムは、肉体と意志と知性の資質を高揚させ、均衡のとれた全人のなかにこれを結合させることを目指す人生哲学である。オリンピズムが求めるのは、文化や教育とスポーツを一体にし、努力のうちに見出されるよろこび、よい手本となる教育的価値、普遍的・基本的・倫理的諸原則の尊重などをもとにした生き方の創造である（根本原則）とし、オリンピック競技大会組織委員会は、文化的ないくつかのイベントを計画し、プログラムを作成しなければならない。プログラムは IOC 理事会に提出し事前に承認を得なければならない（第 5 章・第 44 条）、と定めています。

近代オリンピックにおける『文化プログラム』は、規模・質ともに、五輪開催期間を超えて長期化・大規模化しており、オリンピックは、「スポーツと文化の祭典」となってきました。近代オリンピックにおける

^{*} 現在、株式会社第一紙行

文化的要素をまとめてみると、第1回アテネ～第4回ロンドン（1896～1908年）は「万国博覧会」の時代であり、第5回ストックホルム～第14回ロンドン（1912～1948年）は「芸術競技」の時代（建築、彫刻、絵画、文学、音楽）、第15回ヘルシンキ～第24回ソウル（1952～1988年）は「芸術展示」の時代、第25回バルセロナ～第29回北京（1992～2008年）は「文化プログラム（文化イベント）」の時代、第30回ロンドン～（2012年～）は「新しい文化プログラム」の時代へと変遷してきています。2012ロンドン大会の文化プログラムは下記のようなものでした。⁽³⁾

ロンドン 2012 カルチュラル・オリンピックアードの概要	2008年9月～2012年9月 (ロンドン2012フェスティバル:2012年6月21日～9月9日)
参加者数	4,340万人 (うち無料イベント参加者数3,980万人、ロンドン以外の参加者数2,580万人)
総予算	1億2,660万ポンド(約210億円)
イベント総数	17万7,717件 (うちロンドン2012フェスティバル33,631件)
アーティスト総数	アスリートと同じ204の国と地域から4万4,644名が参加 (うちロンドン2012フェスティバル2万5,000名、6,160名が新進アーティスト、806名が障がいのあるアーティスト)

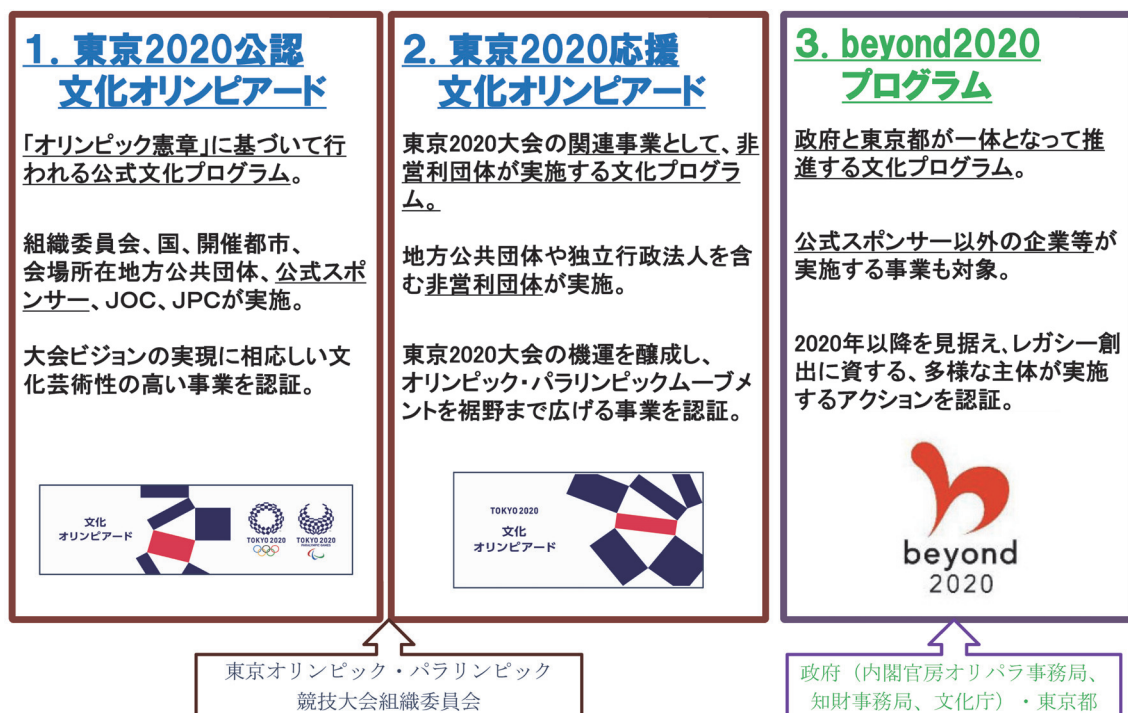
新作委嘱	5,370作品 (うちロンドン2012フェスティバル2,127作品)
会場	英国全土1,000か所以上で開催
(出所)	吉本光宏「2020年オリンピック・パラリンピックに文化の祭典を～新たな成熟先進国のモデルを世界に提示するために」『ネットTAM講座』, 2014年2月

3. 2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた『文化プログラム』

東京2020大会に向け招致決定後、政府は、文化芸術の振興に関する基本的な方針（第4次基本方針）（平成27年5月閣議決定）において、文化プログラムの充実を盛り込みました。その内容は、東京2020大会を文化の祭典としても成功させることにより、我が国の文化や魅力を世界に示すとともに、文化芸術を通じて世界に大きく貢献するまたとない機会であるとし、文化プログラム等の機会を活用して、全国の自治体や芸術家等との連携の下、地域の文化を体験してもらうための取組を全国各地で実施することと、リオ大会（2016年）の終了後に、オリンピック・ムーブメントを国際的に高めるための取組を行い、文化プログラム実施に向けた機運の醸成を図ることでした。

つまり、大会はスポーツの祭典のみならず文化の祭典でもあることを明確にしました。日本には、伝統的

図1. 東京2020大会に向けた「文化プログラム」



な芸術から現代舞台芸術，最先端技術を用いた各種アート，デザイン，クールジャパンとして世界中が注目するコンテンツ，メディア芸術，ファッション，地域性豊かな和食・日本酒その他の食文化，祭り，伝統的工芸品，和装，花，さらには，木材・石材・畳等を活用した日本らしい建築など，多様な日本文化がある。文化プログラムの推進も含め，こうした多様な文化を通じて日本全国で大会の開催に向けた機運を醸成し，東京におけるショーウィンドウ機能を活用しつつ，日本文化の魅力を世界に発信するとともに，地方創生，地域活性化につなげる，とする政府の基本方針が示されました（2020年東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会の準備及び運営に関する施策の推進を図るための基本方針 2015）。

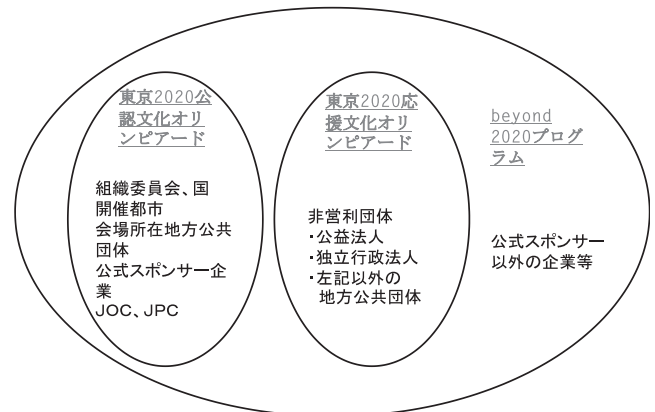
そして，東京2020大会に向けた「文化プログラム」への具体的な参画の枠組みとして，3つの枠組みが準備されました（図1）。⁽⁴⁾ 東京2020公認文化オリンピックアード，東京2020応援文化オリンピックアード，beyond2020プログラムがそれです。

4. beyond2020って、なに？

タイトルの「beyond2020って、なに？」の答えがやっと見えてきたのではないのでしょうか。beyond2020プログラムは，東京2020大会に向けた3つの枠組みからなる「文化プログラム」のひとつです。beyond2020プログラムは他の2つのプログラムと違って，2020年以降も見据えている点（取組の継続），公式スポンサー以外の企業，NPOや地域コミュニティ，アーツプロデューサー等の多様な主体が実施する事業や活動も対象としている点に特色があります（図2）。⁽⁴⁾ 2020年以降を見据え，日本の強みである地域性豊かで多様性に富んだ文化を活かし，成熟社会にふさわしい次世代に誇れるレガシーの創出に資する文化プログラムを「beyond2020プログラム」として認証し，ロゴマークを付与することで，オールジャパンで統一感を持って日本全国へ展開していくものと位置づけられています。まとめると，以下の4つになります。(1) 日本文化の魅力を発信するとともに，共生社会，国際化に繋がるレガシーを創出します。(2) 営利活動，非営利活動に関わらず，文化に関わる幅広い活動を対象とします。(3) 公的機関のほか，民間事業者，その他任意団体等幅広い方にご参画いただけます。

(4) 認証を受けた事業・活動は「beyond2020 ロゴマーク」を使用することが出来ます。⁽⁵⁾

図2. 実施主体別の文化プログラム



5. beyond2020プログラムのロゴマークについて

いよいよ，「beyond2020 ロゴマーク」の登場です。このロゴは，上記したように，2020年以降も見据え，日本の強みである地域性豊かで多様性に富んだ文化を活かし，成熟社会にふさわしい次世代に誇れるレガシーの創出に資する文化プログラムをオールジャパンで統一感を持って日本全国へ展開していくために制作されたものです。このロゴマークは，事業や活動を「beyond2020プログラム」として認証し，認証事業（活動）の共有化の役割を担っています。

beyond2020 ロゴマークは，「全国芸術系大学コンソーシアム」（芸術系の56大学が参加）の協力を得て，2020年を超えて芸術系分野で長く活躍する学生の飛躍の契機となることを期待し，コンソーシアムに参加する大学の学生（大学院生含む）を対象に公募したものです。最優秀作品として採用されたのは，本稿の著者の一人，当時，横浜美術大学3年生の菅原みこの作品です。beyond2020 ロゴマークのデザインは，「いいね」や「グッド」などの賛同のジェスチャーをモチーフにしています。加えて，beyondの「b」や，日本を象徴する「わ」とも読み取れます。日本の文化を共に継承し拡げていきたい，との願いを込めて，2020年を新たな発展へのステップとしてシンボライズしたロゴマークです。⁽⁶⁾ なお，このロゴマークは，商標登録第6038111号，出願人/権利者：内閣官房，として登録されています。

丸川珠代 東京オリンピック競技大会・パラリンピック競技大会担当大臣（当時）のコメント：

beyond2020 ロゴマークは、2020年以降も日本の文化・芸術全体が発展していくようにという願いを込めて、選考委員の先生方に選んで頂きました。菅原さんが作成したこのロゴは、躍動感に溢れ、かつ、暖かみがあって、みんなの心に和む素晴らしいマークだと思います。これから2020年に向けて、文化でも盛り上げていくということで、日本全国でこのマークが見られるような展開をしていきたいと思っています。そして、2020年の先に私達は何を残していくのか、それを一緒に共有していける、そんなマークの存在感をみんなで作っていかれたらと思います。

6. beyond2020 ロゴマークの制作にまつわるエピソードや制作者の思い入れ

ここでは、beyond2020 ロゴマークの制作にまつわるエピソードや制作者である菅原のロゴへの思い入れについて、制作者の学業環境などを交えて一人称で紹介したいと思います。

私が在学したのは横浜美術大学です。キャンパスは横浜市青葉区鴨志田（田園都市線、青葉台駅）にあります。自宅のある埼玉から2時間ほどかけて通学していたことが今ではいい思い出になっています。休まずほぼ毎日通学していたので、朝のラッシュなどを耐えることで忍耐力がついたと感じています。現在、社会人になり始業の30分前に会社についていますが特に辛く感じていないので、学生時代の遠距離通学のおかげだと思っています。

学業では一年次の授業は基礎ということで様々なことを学ぶことができたと感じています。動物園へ行きスケッチをしたり、初めて使う画材でデザインをしたり歌の歌詞から連想するイラストレーションを描いたり様々な体験をすることができました。これらの授業があって二年次から専門的に学びたいことが明確になりました。二年次からの少人数制の授業で自分の得意とする部分を伸ばすことができるカリキュラムだったと思います。同じテーマで作品を作るのに誰一人としてクラスメイトと同じ作品が出ないということに美術・芸術の面白さを感じました。また自分は自分で他人は他人、自分の考え、好きなことなど偽らずに表現できる環境は人間的にも成長することができました。他人と比べ落ち込むことも少なくなりました。自分にしか作れないものがあると実感できる機会でもありました。それも、学生の考え方や表現したいものを否定

せず指導して下さった先生方や助手さんのおかげだと思っています。そしてかけがえのない友人に出逢えたことも大きな財産になりました。友人と旅行して様々なものを見て感性を刺激し合えたことがとても大事な時間でした。

beyond2020 プロジェクトのロゴマークは、夏休み直前に応募の知らせがあり、休み中に挑戦してみようと思い、制作しました。応募要項を見て、国籍や年齢を問わず老若男女に伝わるものをモチーフにしたいと考えたところが発想のきっかけです。また、SNSなどが多くの人に利用されていることから、「いいね」のようなものをキャッチフレーズにすると親近感が沸くのではと考えました。そこから、ジェスチャーとしてのbeyondの「b」と、いいねを意味する「サムズアップ」の形を掛け合わせる案が思い浮かびました。ロゴマークとしてサムズアップをどのように表現するかが一番悩んだ点でした。また、サムズアップだけに見えるよう具象化するのではなく、抽象的にして見方によってはハートにも見えたりと、様々な意味を込められるものにしたいという思いもあり、難航した作業でした。「全国芸術系大学コンソーシアム」への本応募は一枚あたり3点の縛りがあり、学内選考がありました。学内選考に通り、夏休み中の苦勞が報われた気がして嬉しかったです。その後、先生に見てもらいながらブラッシュアップしていき応募しました。思い描いていた形に近づいていくのは制作していて楽しいときでした。

ロゴマーク受賞の知らせは授賞式よりも前に受けていました。アルバイトの休憩中に電話で知り、アルバイト中ずっとそわそわしていたのを思い出します。まだ実感が湧いていなかったのかもしれませんが。その後、内閣府の方々と話し合いをしたりしていくうちに、自分の作品が選ばれたのだと実感し、今まで生きてきた中で一番に嬉しいと感じたのと同時に、自分の成長も感じました。授賞式は、人前に出ることがとても苦手な性格なので緊張の連続でした。しかし、友人たちにたくさんのお祝いの言葉をかけられ、頑張ってたよかったと思えました。両親や親戚が新聞を切り抜いたり、ニュースなどをチェックしてくれたり、喜んでくれているのを感じて、成長を見せることができてよかったです。最優秀賞に決まったあと、実際に使う際の耐久性のあるロゴに仕上げるため、アートディレクターの指導を受け、1ヶ月ほどかけて完成させました。まず、ロゴマークについての現状を話して

もらい、ロゴマークを作る際には、どんな媒体につけても見え方や意味が変わらないようにしなくてはならないことなど、ロゴマーク制作について教えていただきました。そして作成したロゴをどう修正していくか、どうすることで見え方が良くなるのかを指摘してもらい、修正を重ねました。その後も、実際に使用するためのガイドラインに掲載する色指定やマークの比率の調整などを経て完成しました。

それから、受賞前はデザインに自信があまりないと感じることもあったのですが受賞後はそれが減ったと感じています。そしてデザイン制作が以前より楽しく感じ、デザインのアイデアや技術をより一層伸ばしたいと思い、デザインを仕事にしたいと強く思うようになりました。就職活動では人事の方にこの受賞に興味を持っていただけて面接の機会を多くもらえました。希望の職につけたのもこの受賞が大きかったと感じています。また、新聞などで見て地元の友人が連絡をくれたりと、私が美術大学に通っていることを知らない人にも私自身の成長を伝えることができました。

最近、ふとしたところで beyond2020 プロジェクトのロゴマークを目にすることがあります。地方へ出張に行った際にポスターに beyond2020 ロゴマークが付いていたり、チラシに付いていたり、少しずつ広がっているのだと感じています。しかし、生活している中で出会うことはまだまだ少ないので、より多くの人々に知ってもらえるよう、多くの事業や活動が認証されることを願っています。そして、2020 年を超えても日本の文化芸術を広め継承していく事業や活動がこのロゴマークとともに続いてほしいと願っています。

7. おわりに

beyond2020 プログラムの認証申請は 2017 年 1 月からすでに受付けており、内閣官房東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会推進本部事務局、文化庁はもちろん、都道府県、政令指定都市、商工会議所も認証組織になっているところがあります。2018 年 6 月時点で 5000 件の事業や活動が認証されています。⁽⁷⁾⁽⁸⁾ 認証事業（活動）を見てみると、アート展、子ども大学、展覧会、俳句大会、企画展、フェスティバル、伝統芸能、文学祭、パフォーマンス、まんが大学、コンサート、歴史・文化ポータルサイト、マジックアワー、コンテスト、体験プログラム、情報ナ

ビなど、実に幅広い事業や活動が認証されています。beyond2020 プログラム認証は申請手続きも簡素化されており、また認証を受けることによって事業や活動が文化芸術立国を目指す日本の文化プログラムであるとの共有感も得られますので、今後益々、beyond2020 プログラム認証を受けた事業や活動が広がることを期待しています。

弁理士会においても、beyond2020 プログラムの趣旨の理解のもと、会員各位がオールジャパンの取り組みの一翼として、beyond2020 ロゴマークが日本の文化芸術の継承・発展の架け橋として広く使われるための beyond2020 プログラム認証申請の手助けなどをしていただければと思っています。

(参考資料)

- (1) 横浜美術大学, beyond2020 プログラム ロゴマーク
<https://www.yokohama-art.ac.jp/>
- (2) オリンピック憲章
<https://www.joc.or.jp/olympism/charter/chapter5/44.html>
- (3) 片山泰輔 (静岡文化芸術大学)
平成 28 年度前期公開講座「リオデジャネイロ大会から東京大会へ」のレジュメ, オリンピック・パラリンピックの「文化プログラム」と今後の文化政策 ～「文化芸術立国」実現に向けた「レガシー」をどのように形成するか～
https://suac.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=1340&item_no=1&page_id=13&block_id=17
- (4) 文化庁 文化プログラムの実施について 平成 29 年 2 月
<http://www.nga.gr.jp/ikkrwebBrowse/material/files/group/2/13%20170216ori.pdf>
- (5) 内閣官房東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会推進本部事務局
beyond2020 プログラムについて
http://www.bunka.go.jp/seisaku/bunka_gyosei/2020_bunkaprogram/2020_tantokachokaigi/pdf/20170705_shiryos3.pdf
- (6) 内閣官房東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会推進本部事務局
beyond2020 ロゴマーク発表及び表彰式
https://www.kantei.go.jp/jp/singi/tokyo2020_suishin_honbu/beyond2020/effort/pickup/pickup3.html
- (7) 首相官邸担当大臣記者会見 平成 30 年 6 月
https://www.kantei.go.jp/jp/singi/tokyo2020_suishin_honbu/statement/2018/0622speech.html
- (8) 最新の beyond2020 プログラム認証状況
https://www.kantei.go.jp/jp/singi/tokyo2020_suishin_honbu/beyond2020/index.html

(原稿受領 2018. 9. 29)